

JAIIST NOW No.24

目次 特集

～JAIST変人ラジオ スピンオフ企画～

JAIIST NOW No.24 サイエンスコミュニケーション について

JAIST変人ラジオ ナビゲーター 越前屋 侖太 × 副学長(総合戦略担当)・教授 小泉 周

JAIIST HOT NEWS 06

JAIIST PRESS TOPICS 08

受賞者紹介 09

JAIIST同窓会、活躍する修了生 10

JAIIST INFORMATION 12



コミュニケーションについて

JAIST
変人ラジオ
スピノフ企画

サイエンス

『 』
越前屋 俵太
×
小泉 周
『 』

AIが出したロジカルな
答えはつまらない。
研究は人間らしい活動なんです。



小泉 周 KOIZUMI Amane

北陸先端科学技術大学院大学
副学長（総合戦略担当）・教授

1997年、慶応義塾大学医学部卒業、
医師、医学博士。ハーバード大学医学部、
自然科学研究機構でキャリアを積む。
文部科学省、科学技術振興機構（JST）
で科学コミュニケーションに携わる。
2025年4月から現職。

小泉 越前屋さんは、大学の研究について、ワクワク感をもって伝える活動を先駆的に続けてこられました。なぜ今、大学にサイエンスコミュニケーションが求められるのか、お話を伺います。

越前屋 僕は「サイエンスコミュニケーター」というより、「サイエンストランスレーター（翻訳者）」だと思っています。大学の学問を一般の方にわかりやすく伝える仕事は京都大学で始めました。

僕自身は、もともと映像の世界に進みたいと、関西大学でマスコミを学んでいました。ただ、先生が一方向的に話すだけの授業をテストや単位のために聞くという意味がわからなくて。そんな頃にテレビ局のADのアルバイトを始めました。

小泉 映像への思いが強かったんですね。

越前屋 当時は80年代の漫オブーム。面白いことは大好きだったけど、同じ芸人さんばかりがテレビに出ていて個人的には面白くなかった。企画会議で「若者には何がウケるか」と聞かれ、「見たことない、食べたことない、触ったことないもの」を取り上げることだと答えていました。スタ

ジオの外に飛び出して、街の人をいじり出しました。今で言う街ブラ番組の先駆けになりましたが、当時のテレビ制作者からは誰からも理解されず、「やりたいなら勝手にやれ!」と言われ、実際にやったら大ヒットしてしまいました。テレビ局のスタジオを捨てたことで、「街」という世界最大のスタジオを手に入れたことになりました。今でいう「破壊的イノベーション」ですね。

小泉 テレビの世界から大学に関わるようになったのは、どのような経緯だったのですか？

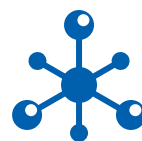
越前屋 東京に事務所を構え、フリーのディレクターとして活動して、大学は除籍。当時、テレビにはヤラセとかややこしい問題がいっぱいあって、私はそういうものと戦った末に仕事がなくなり、40代ですべてを手放して山にこもった時期がありました。

小泉 なかなか厳しい世界ですね。

越前屋 その後、古巣の関西大学の先生と知り合って、「学生に現場の声を届けて欲しい」と頼まれたんです。大学にはいい思い出がないし、卒業もしていない人間が教壇に立つなんてもってのほかだっ

越前屋 俵太 ECHIZENYA Hyota JAIST変人ラジオ ナビゲーター

'80~'90年代にテレビ番組等の制作に携わり、「探偵!ナイトスクープ」など数々の人気番組に出演。現在は、京大変人講座のディレクター兼ナビゲーター、関西大学、高知大学、京都芸術大学、京都外国語大学、北陸先端科学技術大学院大学の客員教授、和歌山大学観光学部非常勤講師を務める。



研究者と社会が混ざり合う。
その時に新しい共創が
生まれるかもしれない。



て。説得されてしぶしぶ引き受けたものの、エンターテインメント論と名付けたのがマズかったのか、いきなり400人の大授業。とはいえ、学生に対して何の理論も教えられない。自分が経験したことしか話せないから、最初の頃は学生にとってはただの自慢話に聞こえたかもしれません。でもある時、テレビを辞めた自分の苦悩を話したら、学生たちの目が一気に変わって、レポートでいろんな意見をもらって嬉しかった。そこから学生との対峙の仕方が変わって、大学という場所が面白くなりました。

小 泉 視点が変わり変わったわけですね。

越前屋 その後、和歌山大や芸大など一時期7大学で授業をしていました。

小 泉 大人気講師ですね。

越前屋 例えば、和歌山大学観光学部では、閑散期の白浜の活性化を考える機会がありました。ブルーーツーリズムみたいな学術的なものはわからないけど、現地の人としゃべってみたら何かわかるんじゃないかと言ったんです。でも、学生たちは現場に行く前に土地の歴史も、宿泊先や飲

食店までもネットで調べ尽くしてしまう。ただそれを「確認」しに行くだけなんておかしいなと感じました。ならば、逆にネットを使わせようと思って「徹底的に調べなさい!」って言ったんです。

小 泉 禁止したって絶対使いますからね。

越前屋 途中、「調べ方が甘い!」なんて言ってね(笑)。それで1泊2日のフィールドワーク当日になって、集合した駅でいきなり「資料は全部放棄しなさい」と言ったんです。

小 泉 映画『トップガン・マーヴェリック』の中で、トム・クルーズが「今すぐ教科書をゴミ箱に捨てろ」と言うシーンのようです(笑)。

越前屋 まさにそうです。インターネットにない情報を得てほしかったんですね。戸惑いながらも街の人に声をかけた学生たちは、「家が上がってジュース飲んでいけ」って至れり尽くせりの歓待を受けて、「人って優しいんだ」「ネットにない情報があるんだ」と生の情報にたどり着く喜びを知りました。彼らに僕がかつて街に出て学んだのと同じ体験してもらいたかったん

です。ただ学校からは、僕はちゃんとした先生じゃないから、「非常勤」ならぬ「非常識講師」と呼ばれましたけどね(笑)。

小 泉 その「非常識」さが重要だと思います。僕は90年代と2000年代では大学ががらりと変わったという印象があります。自分の経験をお話させていただくと、医学部出身で90年代から神経科学・ニューロサイエンスの研究をやり始めて、当時のポスは世界的権威と呼ばれる方でした。僕自身は、社会とのコミュニケーションに興



京大変人講座、待望の書籍化!

味があったので、「研究成果について市民対話をしたらいいんじゃないですか」と伝えてみると、ボスは「世界トップレベルの研究は市民に分かるわけがない」と。市民講座をバンバンやり始めたのは、もっと後になってからです。当時は、社会との壁がありました。

越前屋 僕は研究者を「知の職人」だと思っています。職人さんは誰のためというより、自分が納得するものをつくるために探求し続ける。研究者も同じで、その諦めない思考のアプローチや、論文には決して出ない独自の世界観こそが面白い。そこをみんなに伝えたかったんです。

小 泉 越前屋さんの「人への愛」を感じます。「人」にフォーカスすることは一番重要だと思います。私は医学部出身なのに、医者としてはほとんど活動していません。医学の勉強は実は病気の勉強で、私は「病気以上に、人そのものに興味がある」と気づいてしまった。だからこそ、研究成果だけでなく、「人」としての研究者の魅力を伝えたいという思いがあります。

越前屋 その「人」の魅力という点では、JAISTは面白い場所です。国が実験的に

つくった研究機関だけあって、普通の大学では使えないようなスーパーコンピュータが学生でも自由に使えますし、なにより研究に没頭できる環境が素晴らしい。そして凄い先生や面白い先生がたくさんいる。学生を含めてこの魅力をもっと知ってほしいなと思います。JAISTをもっとメジャーにするために、その存在をどう伝えるか。「変人ラジオ」のほかにも何か仕掛けを考えないと。

小 泉 「変人」たちのパッションをどう伝えるかがカギですね。

越前屋 京都大の「変人講座」もそうですが、YouTubeでやらないかという話もあったんです。「いつでも、どこでも、誰にでも」聞けるネットの時代だからこそ、「今だけ、ここだけ、あなただけ」の価値を追求しました。

小 泉 変人ですね(笑)。でもその場でしかわからない熱さがありますよね。

越前屋 だけど心の中では一人でも多くの人に伝えたい気持ちはあったので、出版社に話を持ち掛けたらそれが本になって、学術本としては異例の5万部の大ヒットに。自分の知らない世界、先生方の世界を一瞬だけでも理解したいから、最初は100%翻訳しようと頑張りましたが、ある時、専門家自身もわかっていないような深遠な研究話に出会った。そこで気づいたのは「トランスレーションは3割わからなくていい」ということ。全部わからせてたまるか、という奥深さがあるから入口に立つ意味があるんです。

小 泉 同感です。私は、野球のリトル

リーグで完璧な技術を教えるコーチより、長嶋茂雄さんみたいなスターが来て、「バーンと打てばいいんだよ」とパッションで伝える方が、子どもたちのプラスになると思っています。科学コミュニケーターが論理を極めるよりも、本物の研究者が好き放題にしゃべる。その「なんだかわからないけど凄い」という熱量を伝えるべきなんです。



満員御礼！熱気あふれる京大変人講座

越前屋 社会ではロジカルシンキングも必要ですが、「エモーションルムービング(衝動的に動く)」が大事。エビデンスばかり追っている新しいことに巡り合えない。見切り発車でやりながら考える「ロジカルムービング」の姿勢が必要。そのためには自分にたくさんの引き出しがないとね。基礎は学ぶべきですが、いつまでもそこに留まっていたはダメ。僕は基礎なしで苦労したけど、大学の先生から基礎を学べた今だからこそ、「守破離」の両方大事と言えます。

小 泉 日本人はもともと破っていくことが得意だと思いますけどね。

越前屋 研究者はクリエイティブだし、職人的でもあります。今、経済がどうか言われていますけど、僕は日本を救うのは最終的に学術だとずっと思っています。しかし、地震とか事件とかが起こって、エビデンスが欲しい時にだけ先生が呼ばれるのは残念で、社会から分断されているように感じます。本来、人が生きる行為の中に学問があったはずだと思うんです。

小 泉 僕らは「タコツボ」と呼んでいますが、研究者が偉そうな世界に閉じこもらず、社会ともっと身近に垣根なく話せると



いいですね。そこで重要になるのが「共創」です。

越前屋 西陣織などの工芸の世界では、職人とデザイナーがコラボして新しいものが生まれています。学問の世界もそれがあり得ると思う。でも、先生を神棚に上げて距離を置いちゃうと生まれるものも生まれない。「お知恵を拝借させてください」という気持ちで僕は先生方と話しているつもりです。学者と職人が出会って何か起こるかもしれないし、もしかしたら学者とおばちゃんが出会った瞬間に何か生まれるかもしれない。

小泉 その点では、ノーベル賞を受賞した北川進先生の「MOF(多孔性金属錯体)」の研究が象徴的です。先生がつくられたのは、何の機能も持たない単なる「ジャングルジム」のような構造体でした。

越前屋 関係者にお聞きしたのですが、北川先生は「何に使えるかわからないけど」と言って、いろんな人にそれを使ってもらっていたそうですね。

小泉 普通は、触媒として働くようなファンクショナルなものをつくらうとするのですが、北川先生はなぜか「空っぽの空間」をつくったのが不思議なんですよ。

越前屋 そのジャングルジムで「遊べ」ということだったんですね。それ自体は楽しいわけではなく、いろんな使い方がされた時に初めてジャングルジムの意味が出てくる。



講演に聞き入る参加者たち

小泉 面白いですね。

越前屋 国が「意味のあることをしてほしい」と言ったところで、最初からわからないし、本当の意味は後からついてくるもの

ですね。まさに、周りから「何をしているんだ?」と言われながら研究している学者こそが、新しい可能性を秘めているので、もっと話を聞いていきたいですね。

逆に、小泉先生にとって「研究者」って何でしょうか?

小泉 子どものように、好奇心に純粋な人かもしれないですね。AIは過去のデータからロジカルに答えを出すんですが、それだとつまらない。だから研究というのは、AIには出せない人間らしい活動なのかもしれません。

越前屋 僕が研究者を好きなのは、自分独自の世界観を持たれていて、話を聞いていて楽しいからです。

小泉 これからの研究者は、市民やステークホルダーの方たちと一緒に考える姿勢が必要だと思うんです。90年代の頃のような「教えてやる」という態度では絶対に共創は起きません。実はこんなことで悩んでいるとか、もっと自分をさらけ出した方がいい気がします。

越前屋 今は、学者が今まで出会わなかった人たちと交わることで新しい何か生まれるような時代に入れていると思うんです。僕らの役割は、タコツボに閉じこもっている研究者を「こそばす」こと。片足だけでも出してもらって、合の手を入れながら、一瞬みんなが笑った瞬間に情報がスッと入っていく。その「パッと開いた瞬間」に共創が起こるわけです。

僕の夢は、京都大学で生まれた「変人講座」を北大から琉球大、JAISTまで広げ、日本中の国立大学を変人でつなげることです。赤本のように並べて、すぐ面白い研究をしている人が日本中の大学にいることを伝えたい。「偏差値で選ぶ」のではなく、「この先生の研究室でこの研究をやりたい」という動機で大学を選ぶ学生を増やしたいですね。

小泉 共創のためには越前屋さんみたいな方が100人は必要ですね。

越前屋 たまに僕のところに聴講生から質問が来たりする時があって、僕がやっているような仕事に興味のある人がいる。サイエンストラנסレーターの役割を引き継ぐ人材も育てていかないと考え始めています。



和歌山大学でのフィールドワーク

小泉 共創の未来のためには、越前屋さんのような、研究者と社会をつなぎ、そのパッションを引き出せる人材の育成もJAISTの使命だと感じました。本日は本当に刺激のお話をありがとうございました。

※本対談はオンラインで実施しました。



2025年7月から12月までのニュース！

JAIIST HOT NEWS



<https://www.jaist.ac.jp/whatsnew/info/>

1 「七尾キリコ祭り」開催に協力しました



7月26日、本学の学生30名と教員が、七尾市一本杉町で開催された「七尾キリコ祭り(奉燈巡行)」の開催支援活動に参加しました。

本活動は、七尾市一本杉商店街関係者から「キリコの担ぎ手不足により開催が難しい」という声を受け、創造社会デザイン研究領域の郷右近英臣准教授が「祭りとコミュニティ構築の関係」に関心を持っていたことを契機に企画されたものです。知識科学の学びと現場体験を結びつけることを目的として、2泊3日の研修として実施しました。

当日は、キリコの組み立てから始まり、「わっしょーわっしょー」と声をかけながら町を歩き回って祭りの開催を地域の方々に知らせる儀式や、非常に重いキリコを担いで町内を巡行するなど、祭りに欠かせない活動を担いま

した。また、地域の方々から祭りの歴史や思い出、祭りへの思いについて伺い、体験と交流を通して多くの学びを得ました。

研修後には、地域のカウンターパートの方から「今回の活動への感謝とお祭りへの思い、復興への強い思い、来年以降も継続的な支援をいただけるとありがたい」という手書きのメッセージが寄せられました。参加学生からも、「大変良い経験になった。また来年も参加したい」との声が多く聞かれました。

今後も本学では、「大学として何ができるか」、「復興支援を通じた学生の成長」という視点から、地域に貢献できる取り組みを継続していきます。



2 エルゼビア社との連携・協力に関する覚書を締結



8月26日、本学はエルゼビア社(オランダ)と、「AIによる研究マネジメントと社会変革の推進、および大学の新たな役割」に関する連携・協力に向けた覚書を、東京サテライトにて締結しました。

本覚書締結に至る経緯としては、6月12日に、同サテライトで行われた、エルゼビア会長Youngsuk 'YS' Chi (ヨンスク・チ)氏と寺野稔学長との面談があります。面談では、本学が推進するMatching HUBをはじめとした地域社会への貢献、AIを活用した社会変革の取組、さらに近年ヨーロッパを中心に広がりがつつある「4th Generation University(第4世代大学、4GU)」という新たな大学像について、活発な議論が交わされました。

こうした意見交換を契機に、本学とエルゼビア社は本覚書に基づき、AIによる研究マネジメントと社会変革に関する「白書」を共同策定し、世界に向けて知見を発信するとともに、

大学の変革モデルの提示を目指します。さらに、大学が地域社会のエコシステムに初期段階から参画し、社会課題の解決と地域経済成長の促進を目指して、地域に根ざしたイノベーションを推進していくという4GUの理念を、日本において推進するために協力を進めていく予定です。

本学は本覚書の締結を機に、生成AIをはじめとする先端科学技術を積極的に活用し、地域・行政・企業等との連携のもと実践的かつ持続可能な社会的価値の創出をめざした取り組みを一層推進していきます。

3

第12回北陸産学連携懇談会・大学見学会を本学で開催



9月8日、北陸経済連合会が主催する第12回北陸産学連携懇談会・大学見学会が本学

にて開催されました。本懇談会は地域の大学と経済界のさらなる連携強化を目指して、毎年開催されています。

はじめに行われた北陸産学連携懇談会には、北陸地区の11大学の学長等や北陸経済連合会の会員企業の経営者ら約20名が参加し、北経連の「第六次中期アクションプラン」において産学連携により取組むべき施策等について活発な議論が交わされました。懇談会終了後には大学見学会が実施され、本

学の概要説明や本学が推進するMatching-HUB、Tech Startup HOKURIKU(TeSH)の取組みについて紹介しました。その後、附属図書館、情報社会基盤研究センター、ナノマテリアルテクノロジーセンター、JAISTギャラリーを見学いただきました。

今回の懇談会および見学会を通じて、本学の強みや特色ある取組みを地域の経済界に広く発信する貴重な機会となりました。

4

北陸国立4大学による共同記者会見を開催



10月14日、金沢大学駅前サテライトにおいて、富山大学、金沢大学、本学、福井大

学の北陸国立4大学による連携拡大に係る共同記者会見を開催し、本学からは寺野稔学長、河野広幸事務局長が出席しました。

記者会見では、4大学がこれからの社会に無限の可能性を創出する新たな連携のプラットフォーム「Hokuriku 4 Universities(略称：H4U/エイチ フォー ユー)」を構築し、2025年3月にロゴマークを策定したこと、及び文部科学省「未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業」(同年9月採

択)における連携強化と事業推進について情報共有を行いました。

今後は、4大学の共創をさらに深め、産業界・自治体・教育界と連携しながら、教育・研究をはじめ、地域創生や産学官連携など幅広い分野で連携を図り、社会の発展に貢献していきます。

5

JAIST-OIST第2回共同シンポジウム「先端科学技術×Gendered Innovation」を開催



11月26日、石川ハイテク交流センターにおいて、本学と沖縄科学技術大学院大学(OIST)は、「先端科学技術×Gendered Innovation」をテーマにしたシンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、両大学が有する先端科学技術分野での補完的な強みを統合し、ジェンダー・イノベーションにおける新たな研究展開を推進するうえで重要な

一歩となりました。

本学とOISTは、多様な分野における両大学の連携推進を目的に、「学術協力に関する基本協定書」を2023年7月に締結し、2024年度からは両大学間の「研究連携」に向けた取組みとして、毎年それぞれの大学を開催地としたシンポジウムを開催しています。

「先端科学技術×Gendered Innovation」をテーマに開催した今回のシンポジウムでは、本学寺野稔学長、OISTカリンマルキデス学長による開会挨拶で幕を開け、続いて基調講演として、Springer Nature Director, DEI, Research Dr. Sowmya Swaminathanと東北大学DEI推進センター佐々木成江教授から、それぞれご講演いただきました。

その後、シュプリングナーネイチャー・ジャパン株式会社アカデミック・エンゲージメント・

ディレクター浦上裕光氏をファシリテーターにお迎えし、基調講演でご登壇いただいたDr. Swaminathan、佐々木教授をパネリストとして、パネルディスカッションを展開しました。会場の参加者との質疑応答も活発に行われ、熱い議論を交わしました。さらに、AI・メデイカル・量子科学の3つのテーマごとに、別会場でも同時セッションを開催しました。

シンポジウムの最後には、学生フラッシュトークおよびネットワーキングセッションが行われ、参加者同士の交流が深まりました。

本シンポジウムは、両大学間の強固な研究連携を目指す上で、大変有意義な機会となり、今後も本シンポジウムを契機に、新たな研究プロジェクトの創出等、持続可能な共同研究体制の構築に向けた取組みを進めていきます。

JAIST PRESS TOPICS

最新の話の中から、特に注目いただきたいトピックスを厳選してご紹介します。



2種の細菌による新たながん治療へのアプローチ「AUN(阿吽)」を開発 —免疫不全状態でも機能が期待されるがん治療に向けて—



物質化学フロンティア研究領域の都英次郎教授らの研究グループは、T細胞やB細胞などの免疫細胞の力に頼らずがんを制御する新しい治療へのアプローチ「AUN(阿吽)」を開発し、8月4日、文部科学省記者会見室にて記者発表を行いました。

今回の記者発表を通じて、研究成果を社会に向けて直接発信できたことを大変意義深く感じています。

発表後は産業界や研究者の方々から多くの反響をいただき、本研究への期待の高さを実感しました。

お困りの患者様のために今後も社会実装を意識した研究を進めていきたいと考えています。



「世界で最も影響力のある科学者トップ2%」に本学から8名の教員が選出



エルゼビア社(寄稿者：スタンフォード大学 John P.A. Ioannidis教授)が9月19日に更新・発表した、科学分野で影響度の高い科学者を特定する「標準化された引用指標に基づく科学著者データベース"Updated science-wide author databases of standardized

citation indicators"」の最新版において、本学から「単年(single recent year)区分(2024年)で8名(「生涯(career-long)区分で10名)の教員が選出されました。

本リストは、エルゼビア社が提供する抄録・索引データベースScopusに基づき、22

の科学分野と174のサブ分野において、5本以上の論文を発表した世界中の科学者を対象としたもので、各サブ分野で被引用数の上位2%に該当する研究者が毎年選出されています。

学生チーム「SoTA」が「クマ×共生ハッカソン」発表会で総合優勝



「クマ×共生ハッカソン」とは

石川県と金沢市の共催によるイベントで、クマの出没情報やブナ科植物の豊凶予測といったオープンデータを活用し、「安全を守るためにできること」「野生動物と共に生きるための仕組み」「地域や人をつなぐしくみ」などについて議論し、プロトタイプ(試作品)として提案する取り組みです。

受賞年月日 2025年9月27日

■受賞者 チーム「SoTA」



人間情報学研究領域 岡田研究室
博士前期課程2年

(左から) 安藤光平さん、阿慈地惇人さん、藤田祐樹さん、菅原叶野さん

■提案したアプリ「クマ総合窓口AI」は

どんなアプリ?

通報と分散したクマ情報を一本化し、住民が探さずに必要な情報だけを受け取れる総合プラットフォームです。適切で効果的な情報発信により、人とクマの棲み分け(共生)を実現します。

プラットフォームの主な機能は、60秒通報システム・パーソナライズ情報提供など。メンバー4人全員が岡田研究室でAIに関する研究を行っており、そこで培った力を発揮。パーソナライズ情報提供ではクマ専用AIが年齢・地域・子どもの有無などの属性や質問内容に応じ、RAGにより信頼できる出典付きで最適回答を提示します。総合プラットフォームでは、ほかのチームのサービスと連携することができ、各アプリや機能、情報発信の効果を最大化します。

メンバーと夜中まで議論を重ね、試行錯誤しながらサービスを形にした時間は、「最高の青春」でした!特にJAIST周辺はクマの出没もある身近な問題で、地域課題にITで挑んだ貴重な経験となりました。仲間と共に挑み続ける。一生モノの刺激がJAISTにはあります。



クマ総合窓口AI

受賞者紹介

Winner introduction

Award Recipient Introduction



2025.8.25

Asia Network Beyond Design (ANBD) 2025 東京通常展

Excellence Award

創造社会デザイン研究領域
金井研究室

博士後期課程 1年

POLWATTE ILLANPERUMA A, Gayathri Bimba



2025.8.31

第50回 Japanese Society for Information and Systems in Education (JSiSE) 全国大会

令和6年度研究会優秀賞

人間情報学研究領域
長谷川研究室

博士後期課程 3年 杉田 一樹



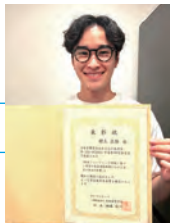
2025.9.11

日本音響学会 第153回研究発表会

学生優秀発表賞

人間情報学研究領域
鶴木研究室

博士前期課程 (2025.3修了) 村上 正悟



2025.10.10

BioJapan 2025 NINEJP 「ピッチ&マッチングカンファレンス」

最優秀賞 (Best Academic Seed Award): 研究シーズ部門

物質化学フロンティア研究領域
都 英次郎 教授

※北陸地域の大学等発スタートアップ支援拠点Tech Startup HOKURIKU (TeSH) の代表として登壇



2025.11.14

36th International Photovoltaic Science and Engineering Conference (PVSEC-36)

Best Oral Presentation Award

サステイナブルイノベーション研究領域 大平研究室

博士後期課程 2年 SUMALDE, Adrian Augusto Mendoza



2025.10.28

スタートアップビジネスプラン コンテストいしかわ2025

最優秀起業家賞

BioSeeds株式会社
(本学発ベンチャー)



優秀起業家賞

物質化学フロンティア研究領域
松村研究室

博士後期課程 3年
加藤 裕介



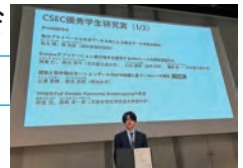
2025.10.31

情報処理学会第108回コンピュータ セキュリティ研究会

CSEC優秀学生研究賞

コンピューティング科学研究領域
藤崎研究室

博士前期課程 (2025.3修了)
雨宮 岳



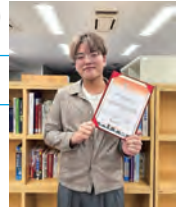
2025.11.6

The 24th International Semantic Web Conference (ISWC 2025)

Best Poster Award

人間情報学研究領域
ナッタウト研究室

博士後期課程 2年
WIANGNAK, Patipon



2025.11.20

令和7年度 消防防災科学技術賞

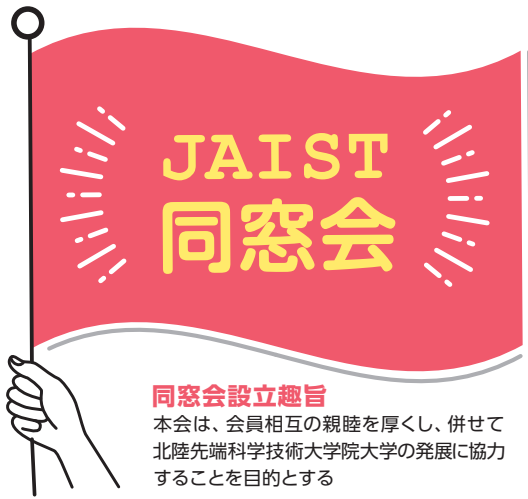
優秀賞

次世代デジタル社会基盤研究領域
丹研究室

博士後期課程 1年
大懸 崇一郎



※身分・学年は受賞当時のものです。



同窓会設立趣旨

本会は、会員相互の親睦を厚くし、併せて北陸先端科学技術大学院大学の発展に協力することを目的とする



学生・教職員による
「JAISTフォトコンテスト2025」入賞作品より

主な活動

- ▶ **同窓会総会 (東京サテライト)**
・活躍する修了生の講演・懇親会
- ▶ **修了生名簿の管理**
・同窓会Webにて随時入力更新可能
- ▶ **在学生への支援**
・学位記授与式時、博士後期課程修了生にアカデミックガウンを貸出
・修了生有志がキャリアメンターとして、就職・キャリア等について助言

同窓会への参加

- ▶ **同窓会Webに登録**
<https://www.alumni.jaist.ac.jp/>
アカウントやパスワードが分からない場合は、alumni@ml.jaist.ac.jp まで。
※大学及び同窓会からのお知らせは、同窓会Webに登録された「転送先メールアドレス」宛にお送りしますので、最新の情報へ更新をお願いします。
- ▶ **Facebookページ**
<https://www.facebook.com/JAIST同窓会-285261078263329/>
または <http://bit.ly/JAIST-alumni>

VOICE OF ALUMNI 活躍する修了生

多様な人と学ぶことで知は育つ。 —JAISTで出会った知識創造の現場



中央大学大学院戦略経営研究科
(ビジネススクール)教授

露木 恵美子
TSUYUKI EMIKO

知識科学研究科
博士前期課程2000年修了
博士後期課程2003年修了

現 在、私は中央大学ビジネススクールにて、主に30代から50代の社会人大学院生を対象に、組織論やリーダーシップ、そして戦略と組織の関係について教えています。企業や組織の第一線で働く方々とともに、理論と実践を往復しながら「組織とは何か」「人はどのように協働するのか」を考える授業を行っています。

こうした教育の原点には、JAISTでの学生時代の経験があります。私は知識科学研究科の一期生として入学し、知識経営論で有名な野中郁次郎先生の研究室で学びました。当時の研究室は、企業派遣の社会人学生のみで構成されており、私は会社を退職してJAISTに進学し、寮に住みながら研究に没頭しました。社会人としてのキャリアをいったん離れ、学ぶことそのものに向き合った

時間は、今振り返っても非常に濃密で贅沢な時間だったと感じています。

学生生活で特に印象に残っているのは、分野も世代も異なる仲間と寝食を共にした日々です。昼間に研究室に出勤してくる企業派遣のビジネスパーソン、夜中に活動する情報系や理系の若い学生と、生活リズムも考え方もまったく違う学生たちが同じ場面に集っていました。あるとき、隣同士に座っている若い学生同士が、対面ではなく隣り合ったブースにこもってチャットで口論している場面に出くわし、「隣にいるのだから直接話さない!」と思わず声をかけたことがあります。今でこそオンラインでのやり取りは当たり前ですが、当時はその光景がとても印象的で、コミュニケーションのあり方そのものを考えさせられました。

また、Javaを使ったプログラミングの授業では、文系出身の私にとって苦労の連続でした。年下の同期生たちに夜な夜な教わりながら、何とか課題を仕上げたことをよく覚えています。思うように動かないプログラムに何度も向き合いながら、「わからないことを素直に聞く」「知っている人に頼る」という姿勢の大切さを実感しました。年齢

や専門に関係なく、互いに学び合う空気が自然とあったことは、JAISTならではの経験だったと思います。

こうした日々を通して強く感じたのは、知識とは机上で完結するものではなく、人と人との関係性の中で育まれるものだということです。議論や試行錯誤、時には失敗を共有しながら支え合う時間こそが、「知が生まれる場」そのものだったと、今でも思います。

JAISTで培った「文理融合」や「π型人才」という考え方は、現在の教育・研究活動の核となっています。異なる専門を行き来しながら問いを深める姿勢、未知の領域に踏み出す勇気、そして多様な他者と協働する力は、戦略と組織、創造的な場とは何かを考えるうえで、ますます重要になっています。

今後のJAISTには、これまで培ってきた学際性と実践性をさらに発展させ、世代や専門を超えて学び合える「知の交差点」であり続けてほしいと願っています。多様な人が集い、対話し、共に考える。その場から生まれる知こそが、次の時代を切り拓く原動力になると、私は信じています。

2025
11/7

初めての海外同窓会セッションを開催

国際研究交流フォーラム「The 13th ASEAN Workshop on Information Science and Technology 2025 : AWIST 2025」(11月6日~8日)の開催に合わせて、初めての海外同窓会セッションを開催しました。

今年度のAWISTは、「Transforming Education and Research: Fulfilling the University's Role in the Super Intelligence Generation」をテーマに、本学が幹事校として開催しました。今回は参加機関を拡大して、**JAIST・協定校接続プログラム(JUMP)**の協定校からの研究者も招待しました。

海外同窓会セッションでは、飯田弘之理事・副学長と橋本昌嗣同窓会会長からの温かい歓迎メッセージに続いて、タイ、インドネシア、ベトナムの各国同窓会代表者による講演が行われ、本学修了生の活躍や同窓会の活動が紹介されました。また、在学中の懐かしいエピソードや、現在も続く本学関係者との活発な研究交流、本学や同窓会に対してのメールもいただきました。その後、会場の参加者を交えて、修了生同士の連携の在り方等について、活発な意見交換が行われました。

本イベントを通じて、本学修了生の強い結束と、本学への深い思いを改めて感じる事ができる一日となりました。

なお、当日は上記の海外同窓会セッションのほか、JAIST SPRING/BOOST国際シンポジウム、各JUMP参加大学の担当教員によるディスカッションも同時開催しました。

AWISTとは?

本学及びASEAN諸国の協定校の教員・学生が参加する情報科学分野を中心とした国際研究交流フォーラムです。毎年、各協定校が当番校を務めています。



(左から) Dr.Charnon Pattiyanon氏、飯田弘之理事・副学長、橋本昌嗣同窓会会長、Prof.Nguyen Van Tang氏、Dr.Hanhan Maulana氏

インドネシア同窓会代表
Dr.Hanhan Maulana氏



タイ同窓会代表
Dr.Charnon Pattiyanon氏



ベトナム同窓会代表
Prof.Nguyen Van Tang氏



同窓会会長
橋本昌嗣氏



Leiden University, Jaap van den Herik名誉教授(写真中央: AWIST基調講演者)を囲んで。

入学希望者の皆さまへ

JAIST石川キャンパス大学院進学説明会等のご案内

未来を切り拓く一歩を、ここから。

JAISTの大学院進学説明会・オープンキャンパスに参加して、自分の可能性を確かめてみませんか。



大学院進学説明会(オンライン開催)

本学教員が、大学及び教育研究組織の概要説明、皆様の質問等にお答えします。また、ご希望の方には、入学案内、研究室ガイド等を送付します。本学に興味をお持ちの方はもちろん、将来大学院への進学をお考えの方は是非ご参加ください。開催日の約1ヶ月前に本学Webページにて申込受付を開始します。

直近の開催日

令和8年4月25日(土)	令和8年6月27日(土)
令和8年7月25日(土)	令和8年9月19日(土)

※その他の開催日・詳細は本学Webページをご確認ください。

その他の進学説明会・相談会

- ・いつでも大学院進学相談会
オープンキャンパス等の日時が合わない方や研究室を直接訪問したい方におすすめです。
- ・どこでも大学院進学相談会
本学教員が、参加者の希望場所に応じて、大学概要・研究領域の説明を実施します(参加人数が2名以上の場合実施)

社会人向けコースの説明会

東京社会人コースや産学連携社会人コース向けの説明会・相談会も随時実施しています。開催日・詳細は本学Webページをご確認ください。

受験生のためのオープンキャンパス(現地開催)

JAISTの魅力をご自身で体験していただき、より本学に興味を持っていただける機会です。研究室への訪問や、附属図書館や学生寄宿舎の見学を通して、本学での研究や学生生活を体験いただくことができます。



開催日

第1回	令和8年5月23日(土)
第2回	令和8年8月29日(土)



お問合せ先 学生募集係 Tel:0761-51-1966 E-mail:nyugaku@ml.jaist.ac.jp

北陸先端科学技術大学院大学広報誌

JAIST NOW No.24

広報室から

今号では、「JAIST変人ラジオ」スピンオフ企画をお届けしました。研究者の魅力や研究と社会の関係など、話題は尽きず、対談の時間はあっという間でした。本誌をきっかけに「変人ラジオ」も視聴いただき、本学の研究や研究者を身近に感じていただければ幸いです。

発行

北陸先端科学技術大学院大学 広報室

〒923-1292 石川県能美市旭台1-1

TEL 0761-51-1031 E-mail kouhou@ml.jaist.ac.jp

2026年3月発行



JAIST

